

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H31.2.13 No.36
文責 林田

☺ かけがえのない存在… ☺

昨今、痛ましい事故や事件のニュースが後を絶ちません。大人の中には子どもを「自分よりも劣る存在」と勘違いする人もいますが、決してそうではないことは、皆さんよくお分かりのことと思います。

「子どもを育てる」ということは、「自分（親、大人）の思うとおりの人間にする」ことではありません。その子が将来、社会の一員として生活できるようなルールや物事の考え方を教え、自立できるような方法を身につけさせることが「育てる」という事ではないかと思えます。

私自身もそうですが、「親」は「こういう子になって欲しい」という願いをもつと、時々その気持ちが強くなった時に、「育てる」ことのもつ意味や、子ども自身の本来の姿を見失うことがあります。「願い」を押し付けることなく、「その子がその子らしく」生きていくことができるように、立ち止まって振り返る余裕をもちたいですね。

私たち、そして社会にとって「かけがえのない存在」である子どもたちを守り育てていきましょう。



☺ ご褒美が有効 ～ トークンエコノミー ～ ☺

発達障害のある子どもたちの指導の方法の一つに「トークンエコノミー」と呼ばれる行動療法があります。以下のような方法です。

トークンエコノミー

子どもが望ましい行動をとれたり、課題ができたりしたときに、「トークン（コイン）」を与え、目標枚数がたまったら、ごほうびと交換できるようにする手法。望ましくない行動や危険な行動をとった時には、ためていたトークンが失われる仕組み。



言わずに宿題ができた
…80点



自分で次の日の準備ができた
…50点



筆箱の中身がそろっていた
…20点



兄弟をいじめた
…-30点

トークン表の例

【プラス得点】

- ・宿題をいわずにできた 80点
- ・自分で次の日の準備ができた 50点
- ・筆箱の中身がそろっていた 20点
- ・親の指示に従えた 10点

【マイナス点】

- ・兄弟をいじめた -30点
- ・親の指示に従えなかった -20点
- ・学校に忘れ物をしてきた -10点

【ごほうび】

- ・100点たまるとにお菓子を100円分買える
- ・200点たまるとにゲームを30分できる

あらかじめ子どもと話し合っって右上のようなトークン表を作っておきます。子どもはご褒美をもらおうとして、トークンをためる行動をとるようになります。

このような方法は、発達障害のない子にも有効です。

例えば、お手伝いを決め、仕事の内容によってポイントや小遣いの額を決めるなどの方法です。お手伝いの難易度によってポイントや小遣いの金額を決め、小遣い支給日を決めてまとめて渡すようにすると、貯める楽しみが勤労意欲につながります。（お小遣い→給料と考えさせても…）

お手伝いに活用する時は、ポイントやお小遣いというご褒美の他に、「あなたがやってくれるので、助かる」という一言もかけてあげると意欲が更に増すと思われます。☺



「二百点たまったら、ゲームを三十分していいよ。」

- ・靴並べ 5円
- ・玄関掃除 10円
- ・風呂掃除 20円
- *毎月20日が小遣い日

